

シムツーザ配合錠

【この薬は？】

販売名	シムツーザ配合錠 SYMTUZA Combination Tablets
一般名	ダルナビル エタノール付加物 Darunavir Ethanolate コビシスタット Cobicistat エムトリシタビン Emtricitabine テノホビル アラフェナミドフマル酸塩 Tenofovir Alafenamide Fumarate
含有量 (1錠中)	ダルナビル エタノール付加物 867mg (ダルナビルとして 800mg) コビシスタット 150mg エムトリシタビン 200mg テノホビル アラフェナミドフマル酸塩 11.2mg (テノホビル アラフェナミドとして10mg)

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するとき特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」

<http://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、抗ウイルス剤と呼ばれるグループに属する薬です。
- ・この薬は、H I V-1 (ヒト免疫不全ウイルス1型) の逆転写酵素とプロテアーゼの活性を阻害してウイルスの増殖をおさえます。
- ・次の病気の人に処方されます。

H I V-1 感染症

- ・抗H I V薬での治療経験がないH I V-1 感染症の人、あるいはダルナビル耐性関連変異を持たない抗H I V薬での治療経験があるH I V-1 感染症の人に使用されます。

- ・この薬は、体調がよくなったと自己判断して使用を中止したり、量を加減したりすると病気が悪化したり、効きにくくなるおそれがあります。指示どおりに飲み続けることが重要です。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

- B型慢性肝炎にかかっている人では、この薬の使用を中止すると、B型慢性肝炎が再燃することがあります。特に非代償性の場合は、重症になるおそれがあります。
- 次の人は、この薬を使用することはできません。
 - ・過去にシムツーザ配合錠に含まれる成分で過敏症のあった人
 - ・次の薬を使用している人
リファンピシン（アプテシン、リファジンなど）、フェノバルビタール（フェノバルなど）、フェニトイン（アレビアチンなど）、ホスフェニトイン（ホストイン）、カルバマゼピン（テグレート）、トリアゾラム（ハルシオン）、ミダゾラム（ドルミカム）、ピモジド（オーラップ）、シンバスタチン（リポバス）、エルゴタミン（クリアミン）、ジヒドロエルゴタミン（ジヒデルゴット）、エルゴメトリン（エルゴメトリンマレイン酸塩）、メチルエルゴメトリン（メテルギンなど）、バルデナフィル（レビトラ）、シルデナフィル（レバチオ）、タダラフィル（アドシルカ）、ブロナンセリン（ロナセン）、アゼルニジピン（レザルタス配合錠、カルブロック）、アスナプレビル（スンベプラ、ジメンシー配合錠）、ロミタピド（ジャクスタピッド）、グラゾプレビル（グラジナ）、リバーロキサバン（イグザレルト）、チカグレロル（ブリリント）
 - ・次の食品を使用している人
セイヨウオトギリソウ（セント・ジョーンズ・ワート）含有食品
 - ・腎臓または肝臓に障害があり、コルヒチンを使用している人
 - ・低出生体重児、新生児、乳児、3歳未満の幼児
- 次の人は、慎重に使う必要があります。使い始める前に医師または薬剤師に告げてください。
 - ・肝臓に障害のある人
 - ・腎臓に重度の障害のある人
 - ・血友病の人および著しく出血しやすい人
 - ・高齢の人
 - ・過去にスルホンアミド系薬剤に対し過敏症のあった人
- この薬には併用してはいけない薬や食品（「○次の人は、この薬を使用することはできません。」を参照）や、併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。
- この薬を使用する前に、腎機能検査（クレアチニンクリアランスなど）が行われます。
- 抗HIV薬による治療経験がある人では、薬剤耐性遺伝子検査が行われることがあります。

【この薬の使い方は？】

●使用量および回数

飲む量は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。

通常、成人および12歳以上かつ体重40kg以上の小児の飲む量および回数は、次のとおりです。

一回量	1錠
飲む回数	1日1回 食事中または食直後

- ・この薬はダルナビル エタノール付加物、コビススタット、エムトリシタビン およびテノホビル アラフェナミドフマル酸塩を含む配合剤です。これらの成分またはリトナビル、テノホビル ジソプロキシシルフマル酸塩を含む製剤とは併用されません。

●どのように飲むか？

コップ1杯程度の水またはぬるま湯で飲んでください。

●飲み忘れた場合の対応

決して2回分を一度に飲まないでください。

気がついた時に、1回分を食事中または食直後に飲んでください。ただし、次の飲む時間が近い場合は1回とばして、次の時間に1回分を飲んでください。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

異常を感じたら、使用を中止し、ただちに医師に連絡してください。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・この薬は、患者さんやそれに代わる適切な人が次の点について十分に理解できるまで説明を受け、同意してから使用が開始されます。

- ・この薬はHIV感染症を根本的に治すものではありません。この薬を飲んでいても、病気が進行する可能性がありますので、身体状況の変化はすべて医師に報告してください。
- ・この薬を長く飲んだ場合の影響についてはわかっていません。
- ・この薬を飲むことで、性的接触または血液を通じた他者へのHIV感染の危険性を低下させるかどうかについては証明されていません。
- ・自己判断でこの薬の飲む量を変えたり、中止したりしないでください。
- ・この薬は他の薬との飲み合わせなどに注意する必要があります。現在使っている薬をすべて医師に報告してください。また、新たに薬を使い始める場合はあらかじめ医師に相談してください。

- ・この薬はH I V-1 感染症に対して1 剤で治療を行うものであるため、他の抗H I V薬と併用されません。また、エムトリシタビンはウイルスに対する作用がラミブジンと類似しているため、この薬はラミブジンを含む製剤とは併用されません。
- ・この薬の使用後は、定期的な腎機能検査が行われます。腎機能障害の危険性がある人では、血液中のリン濃度も測定されます。また、腎機能障害をおこす可能性のある薬は、併用しないことが望ましいとされています。
- ・H I Vプロテアーゼ阻害剤の治療中に糖尿病の発症または悪化がおり、糖尿病性ケトアシドーシス（吐き気、甘酸っぱいにおいの息、深く大きい呼吸、意識の消失）を発現したという報告があります。このような症状があらわれた場合には、ただちに医師に連絡してください。
- ・この薬に含まれるダルナビルの使用により、中毒性表皮壊死融解症（T E N）、皮膚粘膜眼症候群（スティーブンス-ジョンソン症候群）、多形紅斑、急性汎発性発疹性膿疱症があらわれることがあります。これらの副作用の症状があらわれた場合には、ただちに医師に連絡してください。
- ・抗H I V薬を飲み始めた後、免疫力が回復し、日和見感染などに対する炎症反応（発熱、下痢など）があらわれたり、悪化したりすることがあります。また、自己免疫疾患（甲状腺機能亢進症、多発性筋炎、ギラン・バレー症候群、ブドウ膜炎など）があらわれたりすることがあります。
- ・この薬に含まれるダルナビルによる治療中に浮動性めまいがみられることがあるので、自動車の運転など危険を伴う作業をする場合は注意してください。
- ・この薬に含まれるコピシスタットは、C Y P 3 Aという分解（代謝）酵素を阻害するため、C Y P 3 Aにより分解（代謝）される薬と併用する場合には、併用する薬を減量するなど注意して使う必要があります。
- ・この薬に含まれるエムトリシタビンまたはテノホビルは、重篤な乳酸アシドーシス（頭痛、眠くなる、意識の低下）および脂肪沈着による重い肝腫大（体がだるい、吐き気、食欲不振、発熱、腹痛、白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、体がかゆくなる、尿の色が濃くなる）が女性に多く報告されています。これらの副作用を思わせる症状があらわれたら、ただちに受診してください。
- ・この薬に含まれるテノホビル アラフェナミドフマル酸塩により、骨密度が低下することがあります。特に、過去に病的骨折（些細な原因によっておきた骨折）をおこしたことがある人や慢性骨疾患のある人では注意が必要です。
- ・この薬に含まれるエムトリシタビンを飲んだ後で、皮膚が変色（主に手のひらに発現し、小さなしみやほくろのような変色）したとの報告があります。
- ・妊婦または妊娠している可能性がある人は医師に相談してください。
- ・授乳中の方は、授乳を避けてください。
- ・セイヨウオトギリソウ（セント・ジョーンズ・ワート）含有食品はこの薬の効果を下げることがありますので食べないでください。
- ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を飲んでいることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意いただきたい重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。



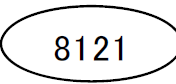

重大な副作用	主な自覚症状
中毒性表皮壊死融解症 (TEN) ちゅうどくせいひょうひえしゆう かいしょう (テン)	皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、発熱、粘膜のただれ
皮膚粘膜眼症候群 (スティーブンス-ジョンソン症候群) ひふねんまくがんしょうこうぐん (スティーブンス-ジョンソンしょうこうぐん)	発熱、目の充血やただれ、唇や口内のただれ、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する
多形紅斑 たけいこうはん	円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する、発熱、関節や喉の痛み
急性汎発性発疹性膿疱症 きゅうせいはんぱつせいほっしん せいのうほうしょう	発熱、皮膚が広い範囲で赤くなる、ところどころに小さな膿をとともう発疹が出る
肝機能障害 かんきのうしょうがい	疲れやすい、体がだるい、力が入らない、吐き気、食欲不振
黄疸 おうだん	白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃くなる、体がかゆくなる
急性膵炎 きゅうせいすいえん	吐き気、嘔吐(おうと)、激しい上腹部の痛み、背中 の痛み、お腹にあざができる、お腹が張る
腎不全 じんふぜん	尿量が減る、むくみ、体がだるい
腎不全等の重度の腎機能障害(急性腎障害、腎不全、腎尿細管壊死、ファンコニー症候群、近位尿細管腎症、間質性腎炎(急性を含む)、腎性尿崩症) じんふぜんなどのじゅうどのじん きのうしょうがい(きゅうせいじん しょうがい、じんふぜん、じん にようさいかんえし、ふあんこ にーしょうこうぐん、きんいによ うさいかんじんしょう、かんしつ せいじんえん(きゅうせいをふく む)、じんせいにようほうしょう)	尿量が減る、むくみ、体がだるい、筋力の低下、骨痛、発熱、関節の痛み、吐き気、嘔吐、下痢、腹痛、尿量が増える、喉が渇く、多飲
乳酸アシドーシス にゅうさんアシドーシス	頭痛、眠くなる、意識の低下

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。

これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	発熱、疲れやすい、体がだるい、力が入らない、体がかゆくなる、むくみ、骨痛
頭部	頭痛、眠くなる、意識の低下
眼	目の充血やただれ、白目が黄色くなる
口や喉	唇や口内のただれ、吐き気、嘔吐、喉が渴く、多飲
腹部	食欲不振、激しい上腹部の痛み、お腹が張る、腹痛
背中	背中での痛み
手・足	関節や喉の痛み、関節の痛み
皮膚	皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、粘膜のただれ、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する、皮膚が広い範囲で赤くなる、ところどころに小さな膿をともなう発疹が出る、皮膚が黄色くなる、お腹にあざができる、体がかゆくなる、発疹、
筋肉	筋力の低下
尿	尿の色が濃くなる、尿量が減る、尿量が増える
便	下痢

【この薬の形は？】

形状	表面	ボトル	
			
	裏面		
			
	側面		
			
剤形	フィルムコーティング錠		
長径	2 2 mm		
短径	1 0 mm		
厚さ	8 mm		
重さ	1 6 0 0 m g		
色	黄色～帯黄褐色		
識別コード	J G		

【この薬に含まれているのは？】

有効成分	ダルナビル エタノール付加物/ コビスタット/ エムトリシタビン/ テノホビル アラフェナミドフマル酸塩
添加物	二酸化ケイ素、クロスカルメロースナトリウム、ステアリン酸マグネシウム、結晶セルロース、マクロゴール4000、ポリビニルアルコール（部分けん化物）、酸化チタン、タルク、黄色三二酸化鉄

【その他】

●この薬の保管方法は？

- ・直射日光と湿気を避けて室温（1～30℃）で保管してください。
- ・子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

- ・絶対に他の人に渡してはいけません。
- ・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：ヤンセンファーマ株式会社

(<http://www.janssen.com/japan>)

ヤンセンコールセンター

電話（フリーダイヤル）：0120-183-275

FAX：0120-275-831

受付時間：9時～17時40分（土・日・祝日・会社休日を除く）